

自治防災を活性化させるための「ため池の簡易見張りシステム」

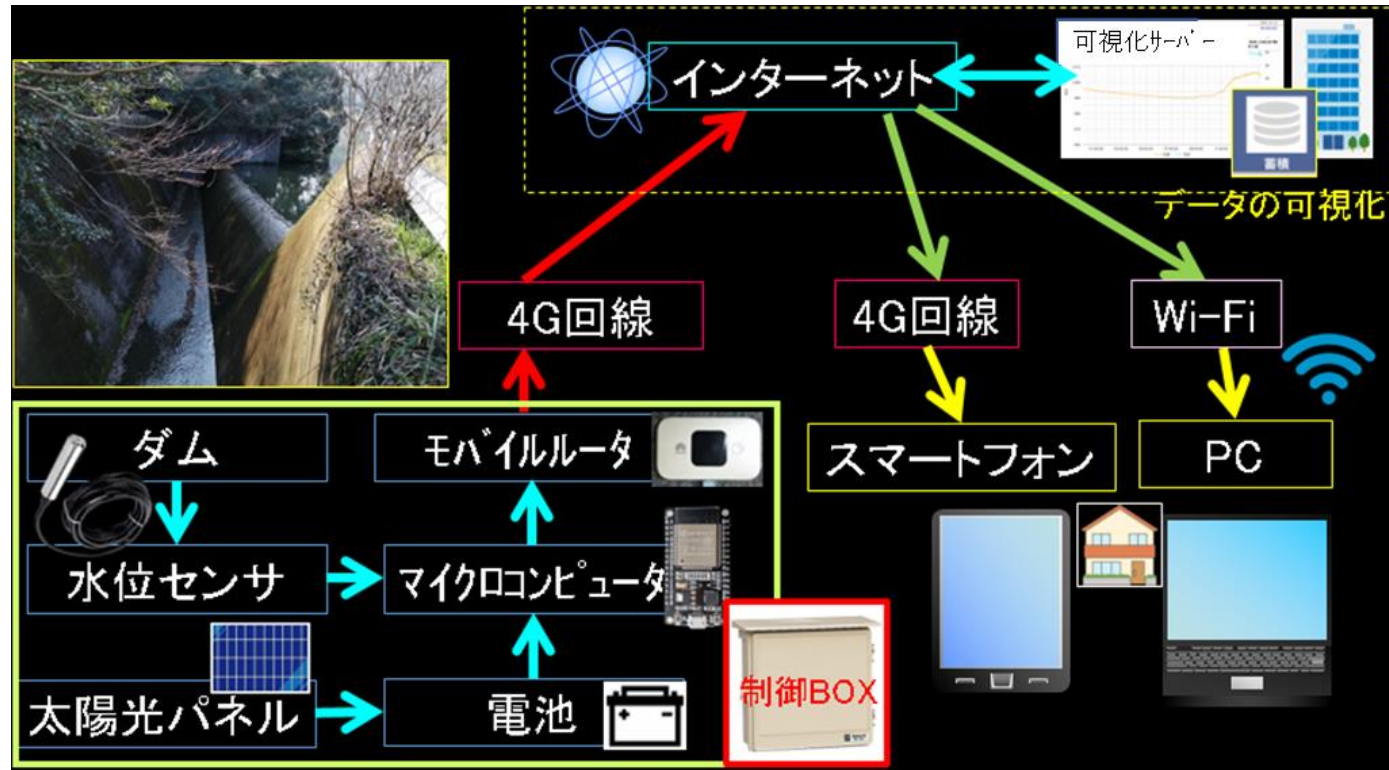
【課題】

大分県内には防災重点農業用ため池が2,000カ所以上点在し、豪雨時の目視による安全監視など、危険を伴う。既存のシステムはため池の監視映像を随時配信しており、カメラの設置費用（300万円～）や映像の通信費用（150万円～）など、住民への負担が大きく、映像配信では豪雨時や夜間などは、カメラの映像が確認しづらいことがあるという難点がある。

【解決手法】

地域住民の自治防災で運用できるように、水位センサ設置では、カメラの設置費用の1/2程度にコスト削減が可能であり、夜間等も監視可能な水位センサの活用とデータの可視化を実現する、ため池管理システムを構築する。

【構想図】



<p>事業実施主体 (コンソーシアム構成員)</p>	<p>株式会社テクノコンサルタント(大分市)、日本文理大学大学院航空電子機械工学専攻稲川研究室(大分市)</p>
--------------------------------	--